

令和3年度 須坂市立須坂支援学校 学校評価のまとめについて

須坂市立須坂支援学校校長 竹村 信之

向春の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、今年度の学校評価アンケートの結果を以下のようにまとめましたので、ご報告いたします。ご多用の中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。各項目の評価や、いただいたご意見等を真摯に受け止め、今後の学校運営に生かしてまいります。今後も、子どもたちの「今と将来の生活の充実」に向け、保護者の皆様とともに考え、諸活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【学校自己評価の結果より】

A「そう思う」 B「おおむねそう思う」 C「そう思えない」 D「そう思わない」

1 目標・学校像

評価項目		A	B	C	D
(1)児童生徒は、学校へ行くのを楽しみにしている。	保護者	81%	19%	0%	0%
	職員	62	38	0	0
(2)学ぶ場として須坂支援学校を選んでよかった。児童生徒の学ぶ場として相応しい学校である。	保護者	81	19	0	0
	職員	25	65	10	0

【保護者】

- ・実際に楽しそうな様子が見られる。近くて通いやすく、よい先生方に恵まれている。
- ・自ら進んで教室に入ることができるようになった。授業も楽しらしく内容を吸収してきている。
- ・手厚い支援を受けていて本当によかったと思う。
- ・毎日楽しそうに登校できるのは、受け入れ環境を整えていただけているからだと思う。
- ・子どもの個性を大切に受け入れてくださる学校で、とてもありがたく思っている。

【職員】

- ・笑顔がたくさん見られ、学校を楽しみにしている様子がある。
- ・施設的に大きな遊具等が設置されていない。
- ・校舎内設備が十分でない。教室等の不足、使いづらさがある。
- ・環境面、教員数などハード面でさらに改善が必要だが、それをカバーしようと努力している。

【成果と課題・今後に向けて】

「学校へ行くのを楽しみにしている」「本校を選んでよかった」の項目について、80%を超す保護者から、A「そう思う」の評価をいただき、AB合わせた保護者の肯定的評価は100%となった。児童生徒の願いや思いを大事に、一人一人が主体的に取り組む学校生活づくりに努めてきたことが、登校を楽しみにする姿につながったと考える。施設面で十分でない部分については、令和6年度の改修工事に向け来年度より市教委と懇談する機会を設け要望等を伝えていきたい。今後も、引き続き地域で学ぶよさを生かした学校生活、児童生徒が自らの力を十分発揮し、成就感や達成感、満足感などを感じながら個々の可能性を伸ばす学校生活となるようにしたい。

2 人権を尊重した接し方・学校づくり

評価項目		A	B	C	D
(3)人権に配慮した、指導・支援がなされている。	保護者	73%	27%	0%	0%
	職員	48	52	0	0
(4)いじめや体罰がない学校環境となっている。	保護者	69	31	0	0
	職員	25	65	10	0

【保護者】

- ・話せなくても、できなくても、いじわるをされないという安心感があります。
- ・いじめや体罰もなく安心して子どもを学校に通わせることができているよと思います。

【職員】

- ・一人一人に、職員の目が届きやすい環境であると思う。
- ・教室にカーテンで区切れる簡易着替えスペースが必要。
- ・自分の言葉や、子ども同士のちょっかひの出し合いでの指導など、常に人権意識に基づき見返したい。
- ・再度、児童生徒の呼び方を確認したい。支援方法や接し方（児童、生徒、保護者）についてもお互いに意識を高く持ちたい。

【成果と課題・今後に向けて】

「人権に配慮した指導支援」「いじめや体罰のない学校」の項目について、A B合わせた保護者の肯定的評価は100%となった。日頃から、一人一人に寄り添った指導・支援を心がけていることが、この評価につながっていると考えられるが、職員の意見にあるように、常に自分の言動を見返しながら、人権感覚を磨いていきたい。また、着替えスペースの設置など、人権に配慮した環境面の改善にも努めたい。

3 個に応じた指導

評価項目		A	B	C	D
(5) 個別の指導計画は、本人・保護者の願いを十分反映している。	保護者	8.1%	15%	4%	0%
	職員	37	53	10	0
(6) 個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践され、授業内容はお子さんに合っている。	保護者	58	38	4	0
	職員	10	80	10	0

【保護者】

- ・面談日以外でも朝や帰りのときに何かあれば相談や報告をさせていただいているので問題なし。
- ・子どもの好きなキャラクターで教材を用意していただき、その都度、改善しているので、子どもも楽しく学べていると思う。
- ・少し頑張るとできそうなことを考えて指導して下さるので、本人も頑張れると思う。
- ・お忙しいと思うが、先生と話し合う時間がもててよかった。
- ・プレイルームで遊ぶことが多くて、勉強してない気がする。

【職員】

- ・職員間のコミュニケーションが取れていると思う。
- ・個別の指導計画は、県の統一版の新形式について、まだ、十分に検討しきれていないと思う。
- ・これまでの形式から新しい形式に変更する際、形式的な部分に労力を割くことが多くなってしまった。
- ・日常の場面で、情報共有ツールとして十分に活用できていない。

【成果と課題・今後に向けて】

「個別の指導計画は、本人・保護者の願いを十分反映している」の項目について、80%を越す保護者から、A「そう思う」の評価をいただいた。今年度、児童生徒の願いの実現に向けた授業づくりについて本校の研究内容にも位置付け、児童生徒の願いを大事にしてきたことの成果であると考え。一方で、個別の指導計画の活用に関しては、課題が残る。今後、職員で十分に検討する時間を設け、個別の指導計画に基づいた授業づくりを行い、支援のあり方や児童生徒の育ちについて確かな評価ができるよう、個別の指導計画を有効に活用していきたい。また、日々の学習活動について、個別の指導計画に基づき、児童生徒にどのような育ちを期待し、何をねらいとして取り組んでいるか、個別の指導計画をツールとし、保護者への説明を丁寧に行っていきたい。

4 チーム支援

評価項目		A	B	C	D
(7) 職員は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている。	保護者	68%	32%	0%	0%
	職員	43	57	0	0
(8) 部・学級の職員が連携して、児童生徒の支援に取り組んでいる。	保護者	73	23	4	0
	職員	52	38	10	0

【保護者】

- ・担任の先生以外（中学部、須坂小）にも名前や顔を覚えてもらって挨拶していただいている。
- ・子どもの様子を先生方から詳しく日々教えてもらい、そこからしっかりと支援を受けていると感じる。
- ・子どもの性格や特徴を知ってくださっているので、いろいろなことを相談しやすい。
- ・子どもの特性を理解してくださり、連携して支援されていると思う。

【職員】

- ・みんなできる限りの努力をしていると思う。
- ・支援会議を減らし、部・学級職員で児童理解を深める時間がほしい。
- ・その子に対しての支援の方向性を、全職員で確実に共通理解していきたい。

【成果と課題・今後に向けて】

職員の連携に関する評価は、保護者、職員ともに昨年度よりA評価が高くなった（保護者59%→73%、職員21%→52%）。これは、職員会議のない水曜日の放課後に職員連絡会を位置付け、職員間の情報共有に努めたり、学級・部の枠を超えた小グループで児童生徒の支援について考え合う時間を設けたりしたことなどがチーム支援によい影響を及ぼしたと考える。来年度は、毎朝、職員打ち合わせの時間を設け、職員が支援に必要な事柄を確実に共通理解した上で一日の活動を始めることができるようにしていきたい。

5 保護者との連携

評価項目		A	B	C	D
(9) 職員とは、十分に連携でき、安心感・信頼感がある。	保護者	77%	19%	4%	0%
	職員	50	50	0	0
(10) 学校は、保護者の思いに寄り添い、誠意をもって応えている。	保護者	73	27	4	0
	職員	58	37	5	0

【保護者】

- ・親では分からないことが多々あるので、先生方に頼り切っています。
- ・保護者の話をよく聞いていただけている。
- ・日常の困ったことなど一緒に考えて解決方法を導いてくださるので頼もしい。
- ・子どものことで相談させていただいたときにとっても心強かったです。信頼でき安心感もあり誠意が感じられてとてもありがたかったです。

【職員】

- ・保護者の皆様との信頼関係が築けるように日々、努めている。
- ・電話連絡など、丁寧に対応しようと心がけている。
- ・保護者の皆様の姿を見ていると、いつも尊敬の思いを抱かずにはいられない。保護者の方から学ぶことも多い。常に保護者へのリスペクトを忘れずに対応していきたい。
- ・自分たちの支援でうまくいかないことについて、原因を他に求めず、常に自分たちのあり方を問い直したい。

【成果と課題・今後に向けて】

保護者との連携に関し、9割を超える保護者から肯定的な評価（A B評価）をいただいた。保護者の皆様の温かい声を励みにしつつ、保護者の「おおむねそう思う」というB評価が20%前後、「そう思いにくい」というC評価が4%であることに思いを致し、十分ではなかった面の要因はどこにあるのか探り、より一層、丁寧な保護者との対応に努めたい。保護者と職員の信頼関係の上に、よりよい指導・支援が可能となるので、保護者の思いに寄り添った意見交換等をさらに大切にし、保護者から信頼される職員集団をめざしたい。

6 地域連携

評価項目		A	B	C	D
(11) 支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、保護者の相談やニーズに応え、計画的な支援を行っている。 例：福祉サービス、進路指導、個々の支援会議 等々	保護者	54%	42%	4%	0%
	職員	43	57	0	0
(12) 学校からのおたよりなどで、学校の様子が伝わっている。	保護者	73	27	0	0
	職員	81	19	0	0

【保護者】

- ・おたよりは文字だけでなく写真付きなので分かりやすい。
- ・おたよりを楽しみにしています。支援会議で相談にのってもらっている。
- ・定期的に会議を開催して下さるので、皆さんと共通理解していただけて助かります。
- ・支援会議で相談させていただけるので、とてもありがたく思います。

【職員】

- ・特に支援会議はその子に対する一貫した支援を共通理解するための重要な場だと思う。
- ・支援会議はちょっとマンネリ化（参加者の温度差）してくることもある。

【成果と課題・今後に向けて】

保護者からは、学校からのおたよりについて「分かりやすい」「楽しみにしている」等の声をいただいた。これを励みに、さらに積極的な情報発信に努めていきたい。支援会議については、他の評価項目に比べても保護者のA評価が50%台と低い。関係機関と連携し、保護者の相談やニーズに応じた支援につながる支援会議となるよう、改善を図っていきたい。

7 交流および共同学習

評価項目		A	B	C	D
(13)須坂小学校や常盤中学校および居住地校との交流は、コロナ禍で限られた中ではあったが、お互いを知り合う機会となっている。	保護者	46%	50%	4%	0%
	職員	50	45	5	0

【保護者】

- ・須坂小の児童のことは把握できていないと思いますが、須坂小の児童は我が子たちを知っていると思うので、それでよいと思う。
- ・コロナ禍なので交流が制限されるのは仕方ないと思います。
- ・コロナのレベルが下がっているときに居住地校交流がもっとできていたらよかった。希望を度々伝えてもなかなか実現されず、相手校の都合もあり難しい面もあるのだろうが、もやもやした思いを持った。

【職員】

- ・子どもたちの実態や感染レベルに応じた交流の仕方を検討し、子どもの育ちにつながる交流としたい。
- ・限られた中でも交流していこうとする意識を忘れないようにしたい。

【成果と課題・今後に向けて】

コロナ禍で可能な交流を模索しながら実施してきたことが、全体としては昨年に比べA評価が高くなった（保護者45%→46%、職員26%→50%）ことにつながったと考える。副学籍校交流については、保護者や相手校と一人一人の事前の打ち合わせを丁寧に行い、本人や保護者の願いが反映される交流となるよう努めたい。また、須坂小や常盤中との交流については、双方の児童生徒のねらいを明確にしながら、日常的な交流を大事にしていきたい。

8 学校への意見・要望等

【保護者】

- ・保護者だけでなく子どもの思いにも寄り添って褒めて褒めて伸ばしていただいていると思います。感謝しております。先生方はやる事がたくさんあるかと思いますが、残業が減ることを願っています。
- ・コロナ禍で制限がある中でも、子どもたちがいろいろ体験でき楽しめる活動を考え実施していただき、ありがたいなあと思います。本当にいつもありがとうございます。
- ・先生方にはいつも配慮、考慮していただきありがとうございます。須坂支援学校に通えてよかったです。すざか分教室との連携のお話を聞いて安心しました。
- ・先日の音楽の授業参観の感想です。子どもが楽しく参加している様子が分かりよかった反面、YouTube等の動画をスクリーンで多用していることに対して違和感を持ちました。子どもたちは喜んでいましたが、安易なものに流れすぎているように感じ、授業としてどうなのかなと思います。
- ・以前のようなアンケートがなくて残念に思う。人事異動の変化をもろに受け、職員間の連携がうまく機能してないことが多くあったと思う。支援学校を考える会は形式的だったように思いました。大変お世話になりました。これからも親子ともに社会的インフラとして核となるような学校でいてほしいと思います。
- ・子どもが笑顔で明るく通える学校づくりをお願いしたいです。
- ・その子に合った勉強を教えてほしい。

【職員】

- ・働き方は昨年度に比べかなり改善されてきている。
- ・各部の行事参加については、子どもたちの豊かな生活づくりという面で、事前の検討を大事にしたい。
- ・学級の枠を超えて部全体で協力し合う体制をとっていきたい。
- ・須坂小、支援学校でともに行う活動については、今後も、個々の実態に応じた参加を大切にしたい。
- ・支援学校は「支援が必要だから」という理由で、行き過ぎたわがままにならないように気をつけたい。
- ・地域との連携を強めて、特色ある学校づくりを行い、それを評価項目にするのはどうか。

【評価を踏まえた今後の学校運営の方向】

保護者からは、学校運営に関し、肯定的な評価を多くいただいたことをありがたく受け止めるとともに、少数ではあるもののC評価であった保護者や、A評価にしなかったB評価の保護者の思いに寄り添いたい。特に、チーム支援、保護者との連携、支援会議、個別の指導計画の活用、交流および共同学習について、保護者や職員から寄せられた意見を参考としながら、児童生徒の確かな育ちにつながるかという視点で具体的な取組を明確にし、今後もさらに改善を図っていきたい。

ご協力ありがとうございました。お問い合わせ等は下記担当までお願いいたします。

須崎市立須坂支援学校
担当 (教頭) 水倉美和子
電話 026-245-0082